



## はじめの“いっぽ”



## 日本語初期支援教育「いっぽ」開講



このほど、カタショー・ワンラボに日本語初期支援教室「いっぽ」が開講しました。

本市では、海外から移住した家庭の子どもたちが、小中学校へ入学を希望することがあります。しかし、そのような家庭の子どもたちは日本語が理解できず、入学してから学習や会話に苦勞することが多いのが現状です。

また、ウィズコロナからアフターコロナに転換したことに伴い、本市では外国籍の移住者が増加しています。



そのような背景のもと、外国籍の子どもたちに安心して学習してほしいという思いから、外国人支援事業のひとつとして立ち上げたのが、日本語初期支援教室「いっぽ」です。

「いっぽ」は、外国籍の子どもたちが市内小中学校に入学する前に、ひらがな、カタカナを始めとする授業や、学校生活に必要な知識や慣習を学ぶ場所です。

「いっぽ」に通う子どもたちは、牧之原市で大きな“いっぽ”を歩むべく、日々学んでいます。



# まちのはら 2023 を開催します♪



【KIDSTOWN<sup>キッズタウン</sup>ぼくらのまちのはら（愛称：ぼくまち）】は、「こどものこどもによるまちづくり」をテーマに、1日間だけの仮想都市「KIDSTOWN ぼくらのまちのはら（愛称「ぼくまち）」」をつくり、遊びを通して社会の仕組みを学ぶイベントです。

いろいろなモノや人との関わりを通して自主性や主体性を育むことで、郷土愛あふれる本市の未来を担う子どもの成長を促すことを目的としています。みんなで『まち』を作るために、7月から「こどもスタッフ」がミーティングを行い、ルールづくりやお店の準備をしています。

当日『まち』で働いたり遊んだりできる「ぼくまち市民」は、小学1年生から中学3年生までの子どもが参加できます。皆さんぜひ遊びに来てください☆

## 開催日時

○日時：8/20（日）10：00～15：00

○会場：相良総合センター い〜ら

詳しくは『まちのはら』で検索してHPをご覧ください。

<まきのはらキッズ夢サポーター 事務局：090-2477-9483（社会教育課：53-2646）>  
HP：<http://boku-machi.net>

# 牧之原市 将棋交流大会



## を開催します

本市が2年連続で将棋タイトル戦の開催地に選ばれたことから、杏林堂杯子ども将棋大会とプロ棋士・女流棋士による指導対局を行います。

開催日 令和5年8月19日（土） 8：30開会  
会場 牧之原市史料館2階ホール（牧之原市相良275-2）  
時間 第1部 杏林堂子ども将棋大会 9：00～12：30  
第2部 指導対局 13：30～15：00

参加費 無料

内容 杏林堂杯子ども将棋大会は、小学生低学年16人、高学年16人に分かれて行います。また、指導対局は瀬川晶司六段、北尾まどか女流二段をお招きして行います。

<社会教育課 TEL：0548-53-2646>

詳細またはお申込みはこちら▶







# 幼保連携型認定こども園 「地頭方こども園(仮)」が開園予定

令和2年3月作成の「牧之原市保育園等施設マネジメント計画」に基づき、令和6年度から地頭方幼稚園と地頭方保育園が統合され、「地頭方こども園(仮)」となります。

幼保連携型認定こども園は、就学前の子どもに対して教育・保育を一体的に行う施設です。出生数が減少している昨今、統合することにより、幼稚園と保育園の機能を維持しつつ、互いの園の良さを生かして、園児自らが安心して身近な環境に主体的にかかわり、遊びや生活の中で生きる力の基礎を育成するよう教育及び保育を実施していきます。

今年度は、互いの園に出かけて一緒に遊んだり、幼稚園の子が保育園の給食を食べたりして、来年度に向けてたくさん交流をしています。



<子ども子育て課 TEL：0548-23-0075>

## <多目的体育館建設通信> Vol.2



本市で初めてネーミングライツ制度を導入し、株式会社サイサン様とネーミングライツ・パートナー協定を締結。「GasOne（ガスワン）アリーナ牧之原」に施設名称が決まりました。

また、工事の状況は基礎工事が完了し、いよいよ建物本体の工事に入りました。令和5年6月現在、1階の躯体工事が完了し、2階の躯体工事に着手しています。進捗状況については今後も教育委員会だよりや専用HPにてお知らせしていきます。



▲ネーミングライツ・パートナー締結式



▲2階躯体工事の状況

多目的体育館専用HP▶

<https://makinohara-sports.info>

QRコードを読み込むとHPへアクセスできます。



<スポーツ推進課 TEL：0548-53-2643>



## 義務教育学校ってどんな学校？

本市では、義務教育9年間でより効果的・効率的に「次代を切り拓く力」を身につけるために、施設一体型義務教育学校の開校を目指しています。

義務教育学校は、小学校と中学校が1つになった学校で、児童生徒の発達段階に合わせた学びが実現できます。

今回は、同じ空間で1～9年生が一緒に生活することによる、子どもたちにとっての良さをお伝えします。

子どもたちにとってどんな良さがあるの？



- 小学生のうちから中学生の様子（定期試験、部活動等）を見ることができ、不安が少なくなり、少しずつ慣れることができる。
- 下級生は、上級生の姿を見て憧れを持つ。中学卒業時の自分の姿をイメージしやすく、目標を立てやすくなる。
- 上級生は、下級生から慕われていることを実感して優しくなり、規範意識が高くなる。自分が人の役に立っているという気持ちから、自己有用感や自己肯定感が高まる。



次回は、「教職員数が9学年分になり、在籍する教職員数が増える」ことによるメリットを紹介します。

より詳しく知りたい方&続きが気になる方は、こちらの動画をご覧ください。

<https://www.city.makinohara.shizuoka.jp/site/kyoiku/49065.html>



<学校再編推進室 TEL：0548-53-2640>

### 一編集後記一

今回の「なないろ」はいかがでしたでしょうか。先日、榛原中学校のみらくるプロジェクトの発表に伺ってきました。どのグループもタブレット端末を使って発表を行い、遠隔配信もしていました。

地域の方や市役所からたくさんの大人が参加し、生徒の発表に耳を傾け、アドバイス、質問、感想などをやり取りしていたのが、とても印象的でした。いつもと違う雰囲気の中での発表もきっと生徒にとっては学びになるはずです。そして、参加された大人にも多くの学びがあったのではないのでしょうか。教育というと生徒へ与えるものとなりがちですが、お互い学び合える双方向の学びの場をもっと作っていったらと思いました。

<編集委員長 池ヶ谷 祐太>

○ご意見・ご感想などお待ちしております↓

発行：牧之原市教育委員会・牧之原市菊川市学校組合教育委員会

電話：53-2642 FAX：53-2657 メール：kyoiku@city.makinohara.lg.jp